

こうべの瓦－房王寺廃寺

2024年12月24日（火）～2025年2月16日（日）

三国時代より瓦が本格的に生産された朝鮮半島では、ハスの花卉（花びら）をあらわした「蓮華文」を主流に、様々な文様の瓦が木造建築物の屋根に葺かれました。その瓦作りの技術は飛鳥時代、日本へ伝えられます。当時の日本において瓦は、寺院や宮・宮殿の建物の屋根に用いられました。このため、古代の瓦が見つかる場所の近くにはそれら寺院等の瓦葺建物の存在が推定されてきました。

房王寺は、神戸市長田区房王寺付近にかつて存在したと推定される奈良時代から平安時代の寺院です。今は付近に地名を残すのみで、寺院の存在を示す遺構等は見つかっていません。昭和の初め頃、室内小学校の敷地内から出土したと伝わる瓦を中心に神戸の古代瓦をご紹介します。



房王寺廃寺（室内遺跡）出土瓦
当館蔵

指定	資料名（所蔵番号または所蔵）	出土	材質技法	員数	時代
	重圏文軒丸瓦	房王寺廃寺	粘土	1点	奈良時代
	重圏文軒丸瓦（柳田コレクション）	伝唐招提寺	粘土	1点	奈良時代
	重圏文軒丸瓦（複製）	原品：難波宮	粘土	1点	
	重弧文軒丸瓦（複製）	原品：難波宮	粘土	1点	
	複弁蓮華文軒丸瓦	房王寺廃寺	粘土	1点	奈良時代
	複弁蓮華文軒丸瓦（複製）	原品：難波宮	粘土	1点	
	複弁蓮華文軒丸瓦	房王寺廃寺	粘土	1点	平安時代
	唐草文軒平瓦	房王寺廃寺	粘土	1点	平安時代
	唐草文軒平瓦	房王寺廃寺	粘土	1点	平安時代
	丸瓦	房王寺廃寺	粘土	1点	奈良時代
	平瓦	房王寺廃寺	粘土	2点	奈良時代
	唐草文軒平瓦	雪御所遺跡	粘土	1点	平安時代後期
	土師皿	雪御所遺跡	粘土	6点	平安時代後期